

# 「ピーチェック！」結果報告書

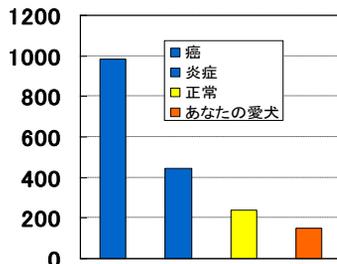
佐藤 マロン ちゃん (10歳)

採尿日: 2020 年 9 月 18 日

あなたの愛犬の健康度



アセスミン検出量



状態	アセスミン検出量と疾患の関係
正常	健康な時には、アセスミンが増えることはありません。尿中からも微量しか検出されません。
炎症	炎症のために一時的に体内のアセスミン量が増え、尿中に排出されます。炎症が治まると排出量は減少します。
癌	癌の増殖に伴って大量のアセスミンが体内で作られ、尿中に排出され続けます。癌の進行に伴って検出量が増加して行きます。

項目	判定
アセスミン	A

(アセスミン判定基準)

A:良好です、B:健康に注意しましょう、C:疾患が疑われます、D:重大な疾患が疑われます

項目	今回の結果	参考基準値	項目説明	判定
尿pH	6.0	5.5-7.0	尿の酸性度を示す値です。疾患に関連して変動し、尿石症にも関係する指標です。	A
尿タンパク	(±)	(-) - (++)	腎臓の機能が低下すると検出されるようになります。尿の通り道の炎症でも検出されます。	A
尿潜血	(-)	(-)	腎臓や膀胱など、尿の通り道の障害を検出します。尿石症等では高値となります。	A
比重	1.025	1.015-1.045	腎臓で尿を濃縮する能力を反映します。腎臓病や糖尿病を含む重要な疾患の指標になります。	A
尿糖	(-)	(-)	糖尿病の重要な指標になります。大量に糖分を摂った場合にも一時的に上昇します。	A
ケトン体	(-)	(-)	メタボ状態の指標となります。脂肪の分解物が代謝されるとケトン体として尿中に排出されます。	A

(判定基準) A:良好です、B:やや基準値から外れます、C:疾患リスクが高まっています、D:疾患が疑われます

今回の検査では、癌や炎症の指標となるアセスミンは、健康な犬で見られる程度の低い値を示しています。

この結果から、特に重篤な癌や炎症は心配ないと思われるのでご安心下さい。

尿には体内の異常が敏感に反映されますが、その他の検査項目についても、大変良好な結果を得ています。

犬の健康状態を外見から判断することは難しいとされますが、今回の総合結果では、現在、あなたの愛犬はとても良好な健康状態にあると思われます。

優れた健康管理がうかがわれますので、これからも、愛犬の健康に注意して定期的な検査を心がけましょう。

次回検査時期の目安: **6ヶ月以内** (最低でも年2回の検査をお勧めしています)